

図書館があつての学生生活

吉川 亜里沙

(学芸学部日本文化史学科 4 回生)

自分自身を追い込むことができる場所・課題やレポート、卒業論文から救ってくれる場所・そして時にはリラックスできる場所、それが私にとっての図書館！

本が苦手で、学校の図書館はもちろん、県や市の図書館を利用することなく、大学へ入学してきたのが私です。しかし、4 回生をもうすぐ迎えようとしている私は図書館がなければ学生生活を送れないと言っているほど、学校や市、そして学校を通じて国の図書館も利用しています。図書館を利用するきっかけとなったのが、課題やレポートそして特に卒業論文です。今からでも図書館を上手に利用すれば、快適でスムーズな学生生活が送れると思います。

本学の図書館には、充実した数の本が揃えられています。館内に備えられている 9 台のパソコン(内 2 台は、印刷機につながっています)と書庫の各階にある 4 台計 13 台を使い、すぐに本の検索ができます。本学に探している本がなかった場合には、他学や市、国の図書館のホームページで検索ができ、本の取り寄せ、複写も図書館を通して依頼できるので、わざわざ足を運ばなくても良いし、「また、学校に本を買ってもらえることのできるのもとても便利です。他学の図書館を利用したい場合は連絡を入れてくれて紹介状も書いてくれます。そして、本学の図書館は本だけではありません。ビデオも見ることができるので、本は苦手という人はココから図書館を利用するのもいいかもしれません。

最初から効率よく利用はできないかもしれませんが、私はそうでした。本を借りるだけであれば問題はなかったのですが、私はパソコンが苦手な本学の検索ぐらいは出来ましたが、パソコンをどのように使っているのかわかりませんでした。その時には、司書の方に頼ればいいのです。図書館で私たちに手を差し伸べてくれるのは本だけではありません。司書の方たちにも、どんどん聞けば図書館はとても使いやすくなります。私が、「これを調べてください」と頼んでいなくても、関係すると思ってくれた本を薦めてくれたりもします。

図書館は、とても快適な場所です。最初は少しずついいので、足を運んでみてください。

司書課程と図書館

櫻森 佳菜

(学芸学部国文学科 4 回生)

司書課程と図書館、この 2 つを繋ぐものは私。だから私と司書課程、私と図書館、と考えてみたいと思う。

まず私と司書課程、つまり私が司書課程を履修している理由を話そうと思う。とても簡単なことで、「本が好きだから本に関わることがしたい」という理由で私は司書課程を履修している。何て単純な、そう思うかもしれない。私自身もそう思う。だが司書課程の講義は私の好きな本、小説に関する話はほとんどない。そして易しいものでもないが、今まで知ることのなかったような話もあって面白い。だが正直いうと、訳が分からない、これが司書になる為に本当に必要な話なのだろうか、と思うことの方が多い。

そんなことを考えながら司書課程を履修しようとしている私だが、最近まで図書館を利用することはほとんどなかった。小学生の頃はヤングアダルト小説が好きで近所の小さな図書館によく通った。だが、中学、高校初期は典型的な読書嫌いで、小説を読むと眠くなるタイプだった。それが高校二年に出来た本好きな友達のおかげで、私もまた本好きに戻った。そして、それまで使ったことのなかった学校の図書館にも通うようになった。きっかけは図書館掃除の係になったこと。その時に面白そうな本を見つけ、借りたことが始まりで、図書館を使うのは六、七年振りと本当に久しぶりだった。その図書館は利用者がとても少なかった。その様子を見て、もっと新しい本や人気のある本などを入れたら皆も図書館を利用するようになるのだろうか、と考えたことを今でも何故か覚えている。高校で図書館再デビューを果たし、現在は、府立の大きな図書館に月に 2、3 度通うようになっている。

司書課程と図書館、どちらが欠けても成り立たない。そして、どちらも本が好きという気持ちがあれば楽しむことが出来る、そういうものだと私は思う。



カフェスペースのイメージ
金田百恵卒業論文(2006年度)より

私にとっての図書館

中川 明日美

(短期大学部人間関係学科 2 回生)

私が通う関屋キャンパスの図書館は、平成十三年に完成したばかりの綺麗な建物です。

“校内であなたが落ち着く場所は？”と問われれば、私は真っ先に図書館を挙げるでしょう。

私は、授業の合間や放課後などの空き時間に、図書館二階のカウンターのようなつくりの席で、ひとり本を読む時間がとても落ち着きます。特に仕切りがあるというような訳ではないのですが、なぜか周囲から切り離された場所で、思う存分、本に集中することが出来ます。

そして、ふと視線を上げると窓から見えるのは美しい緑…。関屋キャンパスは奈良の山の中にあり、正直なところ、何かと不便で、特に“例の階段”に関しては、殺意すら覚えることもあります。景観という面では得をしていると言えるでしょう。

また、AV ルームなどの施設も充実しており、貸し出しのものはもちろん、自分達で持ち込んだビデオや DVD を見ることも出来ます。忙しい学生の身、わざわざ集まってビデオ鑑賞するのは難しいですが、図書館では“学校のついでに”友人達と楽しむことが出来るのです。

他にも、図書館の良い点は、“気軽に新しい分野に触れることが出来る”ということだと思います。普段自分で購入する本は、どうしても分野が偏ってしまうと思いませんか？ 私はそうです。無節操にあらゆる分野に手を出すには、金銭的にも、本の置き場所にも限界がありますし、立ち読みをしようにも、時間と体力に限界があります。本屋さんにも迷惑ですね。その点、図書館では、ありとあらゆる分野の本たちが所狭しと立ち並び、誰かに読んでもらえるのを今か今かと待っています。

このように、素敵な所がたくさんある図書館、あなたも是非利用してみたいかどうでしょうか？

図書館を利用した感想

谷山 敦子

(人間科学部心理学科 4 回生)

大阪樟蔭女子大学の関屋キャンパスの図書館には、専門的な本がたくさんそろっており、調べものをするときには便利です。特に心理学の本がそろっていて、過去の文献から新しいものまで色々あります。授業中に使う資料などをさがすときはとても便利です。

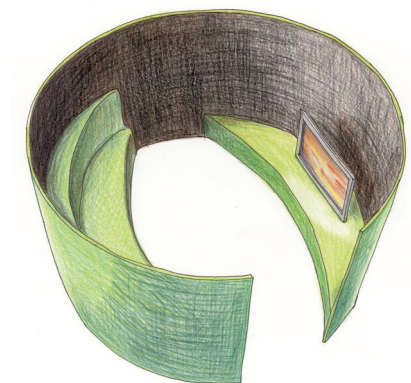
また、本を探すのが大変な時は、パソコンで簡単に検索できるので、たくさんある本の中から、自分が探している本をすぐに見つけられます。受付の人たちも、分からないことや、本のことなど親切に教えてくださるので、気軽に質問したり、話しかけたり出来ます。

それと、卒業論文を作成していくなかで、たくさんの資料と文献が必要となってくる時に、自分のパソコンから、文献を調べて、関屋の図書館にない本は他の学校の図書館から取りよせてくれることが出来るシステムはとても便利です。私も、卒業論文を作るときは、利用していきたいです。

図書館内には自習のための机などがあり、館内はいつも静かで、勉強しやすい雰囲気が保たれています。

あと、シアタールームや、DVDなどを鑑賞できる設備などがあり、本だけではなく、映画鑑賞なども気軽に楽しめるので、とてもいい空間だと思います。

これからもこの便利な図書館をどんどん利用していきたいと思っています。



AVブース(樟蔭のイメージカラーを意識して)
金田百恵卒業論文(2006年度)より